にほんばし

人形町

Ningyocho 2015

夏号

VOL.136

〈特集〉「人形町、建物探訪。」

時代を経て、今も受け継がれるその空間を堪能しよう。

人之助がオススメのお店を紹介。「人之助探訪」

頑張る若い店主を応援 VOL.11

夏のイベントも満載！

にほんばし 人形町 VOL.136 夏号 Ningyocho 2015

平成27年6月1日 通巻136号 発行／人形町商店街協同組合 東京都中央区日本橋人形町1-18-9 ☎03(3666)9064

題字／橘右女次 表紙イラスト／森本サンゴ 編集制作／(株)ストラ(有)オフィス・クレール 印刷／(株)メディアリンク

人形町 いまむかし

アールデコで彩られた 水天宮交差点

文・山田 譲司

流行りものは常に移ろいやすく何時しか時代遅れだの古いだのと揶揄(やゆ)され振り向きもされなくなりますが、それから数年も経つと流行は繰り返し、或いは懐古の対象になり持て囃される。こうして歴史や文化は積み重ねられていくようですが、その中で時代を反映した建築物は一度建ててしまったら数十年はその街に溶け込み流行とは異彩を放つように、レトロ感という暖かい雰囲気を私たちに感じさせ、街の景観をも担っているのです。人形町にもそんな建物がありました。

レトロな近未来的ビル

関東大震災後、日本橋界隈に洋風な建物が次々に建ち始めます。当時の建築界の流行はアールデコ調、いわゆる装飾美術で建物のデザインは幾何学図形、左右対称が基本で当時の文明の急激な発展を象徴したその時代の近未来的ビルです。

昭和初期、水天宮交差点を囲んでアールデコの気風漂うビルが建っていました。現在ファミリーレストランの入っている建物は久留米藩の衣服係、池田氏が久留米絣を広めるために建てた曲線と直線を合わせた四階建ての久留米屋総本店ビル。水天宮の敷地内にはスクラッチタイルで覆った巴ビル、中には明治製菓が洋風甘味屋を出店し、金属製のカップのアイスクリーム、ソーダ水などを提供する当時の子供たちの憧れの場所であり、5日の水天宮の縁日には遠方からの参拝客で大変な賑わいであったそうです。この二つのビルの間を三ノ輪へ行く21番、渋谷へ向かう9番、土州橋から北千住までの22番、後楽園を通って角筈までの14番とそれぞれ番号をつけた都電が走る、これが人形町の日常の風景だったのです。

旧久留米屋総本店ビル

旧巴ビル

「アールデコに師を想う」

掲載した2枚の写真は有田さんからお預かりしたものです。有田さんは建築様式にも造詣が深く、その中でもアールデコ調の建物がお気に入りでした。ですからこの二つのビルが無くなることを大変惜しみ、写真に収めたそうです。

写真・資料提供：有田芳男

人形町商店街協同組合は応援しています。
人とセラピードッグの心のふれあい。

ホームページ「人形町」 http://www.ningyocho.or.jp/

味 処

商 処

美 処

粋 処

愉 処

公 処